



平成19年3月期 第1四半期財務・業績の概況（非連結）

平成18年7月21日

会社名 株式会社 カイノス

(JASDAQ・コード番号：4556)

(URL <http://www.kainos.co.jp>)

代表者 役職名 代表取締役社長  
氏名 中村利通

問い合わせ先 責任者役職名 専務取締役 管理本部本部長  
氏名 徳永孔志

(Tel : 03 - 3816 - 4123)

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有 ・ 無
- 最近会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有 ・ 無
- 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有 ・ 無

2. 平成19年3月期第1四半期財務・業績の概況(平成18年4月1日～平成18年6月30日)

(1) 経営成績の進捗状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年3月期第1四半期	1,037	(7.8)	27	(43.6)	26	(49.3)	28	(36.6)
18年3月期第1四半期	1,124	(6.1)	48	(55.3)	52	(89.2)	20	(75.0)
(参考)18年3月期	4,589	(6.0)	164	(0.4)	142	(0.6)	230	(215.8)

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
19年3月期第1四半期	6 28	
18年3月期第1四半期	4 60	
(参考)18年3月期	51 78	

(注) 平成18年3月期第1四半期における経営成績は連結の経営成績により、平成19年3月期第1四半期及び平成18年3月通期は非連結の経営成績により示しております。

なお、連結と非連結による経営成績への影響はありません。

〔経営成績の進捗状況に関する定性的情報等〕

当第1四半期における国内景気は、前期までの国内企業の順調な業績回復に支えられ引き続き堅調に推移しております。

経済環境につきましては、米国の利上げ休止観測や我が国におけるゼロ金利解除などの金融政策の影響、或いは原油価格の高騰及び中東情勢などの影響を背景として、為替相場については緩やかではありますが円高への推移をみせ、株価についても1万5千円台を割り込むなど、その経済環境については依然不透明な状況にあります。

このような環境のなか、当社におきましては積極的な事業活動を展開してまいりましたが、当第1四半期における売上高につきましては、平成17年度における輸血検査用試薬事業の取引形態変更の影響もあり、対前年同期比較で8千7百万円減の10億3千7百万円となりました。

また、営業利益につきましては2千1百万円減の2千7百万円、経常利益については2千5百万円減の2千6百万円となりました。

## (2) 財政状態の変動状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり 純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	5,942	2,471	41.6	554 28
18年3月期第1四半期	5,622	2,251	40.1	504 86
(参考)18年3月期	5,639	2,481	44.0	556 38

## 【キャッシュ・フローの状況】

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第1四半期	192	291	535	622
18年3月期第1四半期	6	2	84	802
(参考)18年3月期	171	61	388	572

## 〔財政状態の変動状況に関する定性的情報等〕

当第1四半期末における総資産は、売上債権の増加および笠間工場・研究室の増改築工事の実施により、前期末に比べ3億3百万円増の59億4千2百万円となりました。負債合計につきましては設備投資資金および短期運転資金の調達により、前期末に比べ3億1千3百万円増加し34億7千1百万円となりました。また、純資産の部につきましては利益処分による配当金の支出等により9百万円減の24億7千1百万円となりました。

## (キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期における営業活動によるキャッシュ・フローは1億9千2百万円の支出となりました。これは主に法人税等の支払1億5千3百万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは2億9千1百万円の支出となりました。その主なものは笠間工場・研究室の増改築工事及び次期生産管理システム及び原価システム構築によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、5億3千5百万円の獲得となりました。これは主に設備投資を目的とした資金調達によるものです。

## 添付資料

(要約) 四半期貸借対照表、(要約) 四半期損益計算書など

以上

[参考] 平成19年3月期の業績予想(平成18年4月1日~平成19年3月31日)

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
中間期	2,091	48	23	
通期	4,575	137	63	14 32

上記の予想には本資料の発表日現在における将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。競合状況・為替の変動などにかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想数値と異なる可能性があります。

[業績予想に関する定性的情報等]

平成19年3月期の業績予想につきましては、平成18年第1四半期現在の状況を踏まえて、平成18年4月25日付けの決算短信における予想のままとしております。

また、設備投資面におきましては、前期に引き続き笠間事業所(茨城県笠間市)の改修工事を継続して行っており、平成18年3月には新配送センター、平成18年7月には製造施設を稼動いたしました。

また、当第2四半期以降においては研究施設の整備拡充及び新原価システムへの投資も予定しており、これらの要因を含めて平成19年3月期の中間期及び通期における業績を予想しております。